東北発コンパクトシティのすすめ

持続可能な社会の実現に向けて

推 進 の 手 引 き

東北発コンパクトシティ検討委員会

はじめに

東北圏（東北６県及び新潟県）は、白神山地に代表される豊かな自然に恵まれるとともに、我が国の食料基地を担う農林漁業の資源に恵まれた地域です。また、豊かな自然に育まれた東北圏には、大切に守り受け継がれている伝統的な祭りや雪文化、伝統工芸など独特の歴史・文化が残っています。

しかし、全国に比べ人口減少・少子高齢化が著しく進むことが予測される東北圏においては、地域の活力低下や財政制約などにより地域社会の存続に大きな影響が生じる可能性があります。さらに、農業を基幹産業とする市町村が多く、中小都市の周辺には広大な農地が広がる土地利用形態が多く見られ、農業の衰退が無秩序な市街地拡大の引き金となるケースもあります。

このような状況の中、持続可能な社会の実現のためには、拡大型のまちづくりを見直し、都市と農山漁村地域との有機的な共生を図った、コンパクトなまちづくり（東北発コンパクトシティ）に取り組むことが、これまで以上に重要になっています。

そのため、都市計画や農業を専門とする学識者の他、東北７県の都市計画担当者、国の関係機関で構成する「東北発コンパクトシティ検討委員会」を平成２０年１１月に設立し、東北圏の特性に配慮したコンパクトシティの考え方やその進め方について議論を重ねてきました。

この東北発コンパクトシティは、中小規模の市町村が取り組むことができ、農山漁村地域や近隣市町村を含めた多様な主体との連携によって形成されるものであります。

そのため、取り組みにあたっては、地域住民や多様な関係機関の参加・連携が不可欠であり、なおかつ、計画から実現まで長い時間を要するため、時間軸に沿ってできるところから着手し、少しずつ進めることが大事です。

コンパクトシティの実現に向けては、人口１０万人以上の比較的規模の大きな都市を中心に、必要性の認識が高まってきましたが、中小規模の市町村までは必ずしも浸透していない状況です。

そこで、本書はこれまで検討した結果をもとに、東北圏の市町村や住民に対して、まちづくりの参考となるよう、「東北発コンパクトシティのすすめ」として取りまとめたものです。これが、今後のまちづくりの取り組みの一助になれば幸いであります。

平成 21 年３月

東北発コンパクトシティ検討委員会　委員長
弘前大学　教授
北原　啓司

目次

「東北発コンパクトシティのすすめ」の構成 1

第1部　理念編

1．東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景 6

1.1　持続可能な社会に向けて 6

1.2　東北圏でコンパクトシティに取り組む上での視点 7

1）拡大型のまちづくりから「コンパクト」で質の高いまちづくりへ 9

2）都市の周辺に広がる農山漁村地域への配慮 11

3）中小規模の市町村が分散する地域構造への配慮 12

2．東北発コンパクトシティ 13

第2部　実践・事例編

3．実現に向けた取り組み 17

3.1　取り組みの進め方 17

3.2　重点的に取り組む施策 19

1）秩序ある市街地の形成 21

2）街なか居住の推進 22

3）街なかの都市機能の強化 23

4）市街地内の快適な移動の確保 25

5）農地を守る集落機能の強化 27

6）多様な主体による農地の有効利用 29

7）都市機能の相互補完 31

3.3　取り組み事例 33

「東北発コンパクトシティのすすめ」の構成

第1編　理念編

1. 東北圏における「コンパクトシティ」の検討の背景

1.1 持続可能な社会に向けて

持続可能な社会を構築するため、東北圏の特性に配慮した中小規模の市町村でも取り組めるコンパクトなまちづくりが必要である。

1.2 東北圏でコンパクトシティに取り組む上での視点

視点①：
拡大型のまちづくりから「コンパクト」で質の高いまちづくりへ

- ●全国一の人口減少率
- ●少子高齢化の急速な進行
- ●豪雪地帯での暮らし
- ●低密度に広がる市街地
- ●郊外化が進む公共公益施設
- ●公共交通の利用離れ

視点②：
都市の周辺に広がる農山漁村地域への配慮

- ●市街地周辺に点在する農業集落
- ●急増する耕作放棄地

視点③
中小規模の市町村が分散する地域構造への配慮

- ●求心性を有する中小規模の市町村
- ●厳しい自治体財政

2.東北発コンパクトシティ

2.1 東北発コンパクトシティの考え方

都市の周辺に広がる農山漁村との有機的な共生を図り、近隣市町村と都市機能を補完しあうコンパクトシティ（都市像）

2.2 基本方針

1）個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり

2）都市と農山漁村地域の連携

3）近隣市町村間の連携

第2編　実践・事例編

3.実現に向けた取り組み

3.1 取り組みの進め方

東北発コンパクトシティを実現するため、住民や市町村、県、国などの役割を認識し、多様な主体が連携して取り組むことが必要である。

3.2 重点的に取り組む施策	3.3 取り組み事例
1）秩序ある市街地の形成	事例：福島県三春町
2）街なか居住の推進	事例：新潟県妙高市
3）街なかの都市機能の強化	事例：岩手県北上市 事例：山形県鶴岡市
4）市街地の快適な移動の確保	事例：青森県五戸町 事例：青森県黒石市
5）農地を守る集落機能の強化	事例：山形県飯豊町 事例：宮城県登米市
6）多様な主体による農地の有効利用	事例：秋田県小坂町 事例：福島県喜多方市
7）都市機能の相互補完	事例：新潟県長岡地域 事例：岩手県花巻市